



まつお 松尾 絹香ちゃん(3さい) 北本荘
たけだ 竹田 海斗くん(2さい) 野添

「明るく素直な子に」
(お父さん・お母さんより)

「ゴタしてもいいから
優しい子に育ってね」
(お父さん・お母さんより)

このコーナーに出ただく「わんぱくはりまっ子」を募集しています。
(3歳・5歳対象) 広報担当まで電話を。またスナップ写真を送ってもらってもけっこうです。



きゅんぱすだより

仲良く遠足にでかけたよ

蓮池保育園

少し寒かったけれど、秋色がいつばいの中遺跡へお弁当を持って遠足に出掛けました。

三歳児には、ちょっと長い距離。でも五歳児のお兄ちゃん、お姉ちゃんたちに手をつないでもらって一緒に歩きました。横断歩道を渡る時には「危ないで。右見て、左見て、また右見るねんで」と教えてもらいました。



みんなで遠足へ

お兄ちゃん、お姉ちゃん、また一緒に連れていってね。



とってもおいしかったよ

また、うす暗い昔の家の中では「こわいか? だいじょうぶやで。僕があるからな」と言って優しく手を握ってくれたので安心。すっかり仲良しになった子どもたちは、どんぐりや松ぼっくりを一緒に拾って大喜び。また、落ち葉の中を駆け回って鬼ごっこを楽しみました。

お昼には、手作りのお弁当をおいしく食べました。寒かったけれど、ほほえましい光景に心はあつたが。

合い言葉はワン・ツー・スリー

播磨西幼稚園

「先生、おはよう! 触って手がかんなに冷たい」「お口から白いのが出たよ」と言いながら、今日も元気に登園してくる子どもたちです。

「ちゃん、一緒に『ワン』に

行こう!」「うん、今日は何にする?」「高鬼は?」「縄跳び」「くね迷路」とすぐに園庭へ飛び出して行きます。

寒くなってくるこの時期、西幼稚園では『ワン(体の温まる遊び)』『ツー(うがいと手洗い)』『スリー(乾布摩擦)』の開始です。

ほっぺをちよっぴり赤くして園庭から帰って、うがいを済ませると、さあ裸んぼになって『スリー』です。

みんなでほっぺをこすりましょ。自分たちでテープのスイッチを入れて、曲に合わせてゴシゴシゴシ。最後の仕上げは足の裏を モミモミ トントン 「こそばいなあ」「いい気持ち!」

曲が終わるころには、何だか体も心もほっこりしてきます。さあ、これで風邪なんかには負けないよ!

合い言葉は「ワン・ツー・スリー」



みんなで一緒に「スリー!」

園では『ワン(体の温まる遊び)』『ツー(うがいと手洗い)』『スリー(乾布摩擦)』の開始です。

ほっぺをちよっぴり赤くして園庭から帰って、うがいを済ませると、さあ裸んぼになって『スリー』です。

みんなでほっぺをこすりましょ。自分たちでテープのスイッチを入れて、曲に合わせてゴシゴシゴシ。最後の仕上げは足の裏を モミモミ トントン 「こそばいなあ」「いい気持ち!」

曲が終わるころには、何だか体も心もほっこりしてきます。さあ、これで風邪なんかには負けないよ!

合い言葉は「ワン・ツー・スリー」

楽しかった北小フェスティバル

播磨北小学校

播磨北小学校では、十一月三日(土)に、地域に開かれた学校を目指した第三回北小フェスティバルを行いました。

今年も児童会を中心に、児童・教師・PTAの代表が集まって実行委員会を開き、計画を進めてきました。

午前の第一部では、総合的な学習の時間や教科の学習の発表を主に、子どもたちのステージ発表やPTAのコーラスがありました。

昼は家族そろっての楽しい昼食。PTAの方々によるドーナツ販売や、五年生が作ったもち米でのポン菓子のアトラクションもありました。

午後の第二部では、子どもたちが考えた出店や地域のの方々も含めての展示(トールペイント・工作・手芸など)のほか、そば打ちの実演や体験があり、地域に開かれた学校、地域

域の文化交流の拠点としての活動ができました。

これからも地域に開かれた学校・地域とともに歩む学校を目指して、学校・家庭・地域社会が手を携えて、子どもの「生きる力」をはぐくむよう取り組んでいきたいと思えます。



自分たちで考えたゲームにチャレンジ

国税局より表彰を受ける

播磨南高校

十一月三十日(金)兵庫県立播磨南高校において、一年生六人の「税に関する高校生の作文」の表彰伝達、および大阪国税局からの学校表彰が行なわれました。

「加古川税務署長賞」受賞者は一

年松田恵理子さん、王子里絵さん、橋本明日香さん、「加古川・高砂・稲美・播磨租税教育推進協議会会長賞」受賞者は一年藤原有希さん、長尾絢佳さん、十鳥佑見さんの三人が受賞。それぞれ加古川税務署長より



私たちが表彰されました

表彰していただきました。

松田恵理子さんの作文は、参議院選挙のころの話題となった国家財政のことや、家族と税金について話をしたことをまとめたものです。

また、会長賞を受賞した藤原有希さんの作文は、稲美町役場勤務のお父さんが、町民からの税金についての質問に回答し、それが掲載された広報をもとに自分たちの住んでいる町の財政についてまとめたものです。

二人とも「将来は税金を納めているのだから、税について知識を深めることが大事」と語ってくれました。

テレクラによる出会いに潜む危険

指導主事 正木 正宣

テレクラ対策について、兵庫県では青少年愛護条例の改正により、営業禁止区域の設定、テレクラ利用カードの自動販売機への収納禁止など、全国的にも厳しい内容の規制強化を行い、各関係機関の協力により、県内営業所が減少するなど成果を上げています。

しかし、近隣市町において、テレクラや出会い系サイトなどをきっかけとして、子どもたちが犯罪に巻き込まれ、被害に遭う事件が発生しています。

ある調査によると、中学二年

生のうち、「テレクラに電話をかけた経験がある」と答えた者は二・七%、「自分はかけたことはないが、電話をかけたという友だちを知っている」と答えた

者は二六・五%に上っており、テレクラなどの性風俗営業が中学生にとって相当身近な存在となっていることがうかがわれます。

このような状況の中、関係機

関の職員による「テレクラ特別対策チーム」を各県民局ごとに編成し、管内の営業所への一斉立ち入り調査、指導の徹底などに取り組んでいるところです。

また、青少年愛護条例では、青少年によるテレクラ利用を防止するため、テレクラ営業所への青少年の立ち入り、青少年への利用勧誘、青少年への広告物頒布などを禁止しています。

青少年にテレクラを利用させないよう、みんなで注意しましょう!